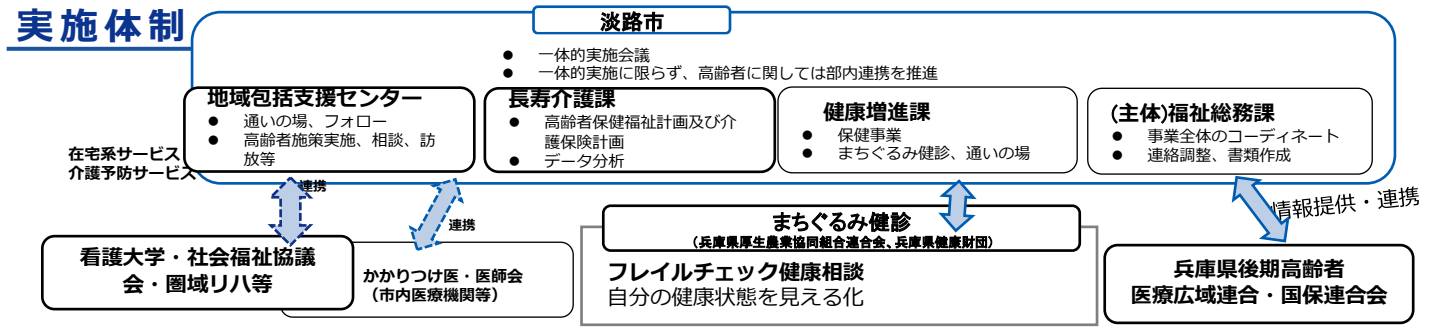


兵庫県淡路市 ー地域の課題を共有し関係各課一体となり健康寿命の延伸を目指すー

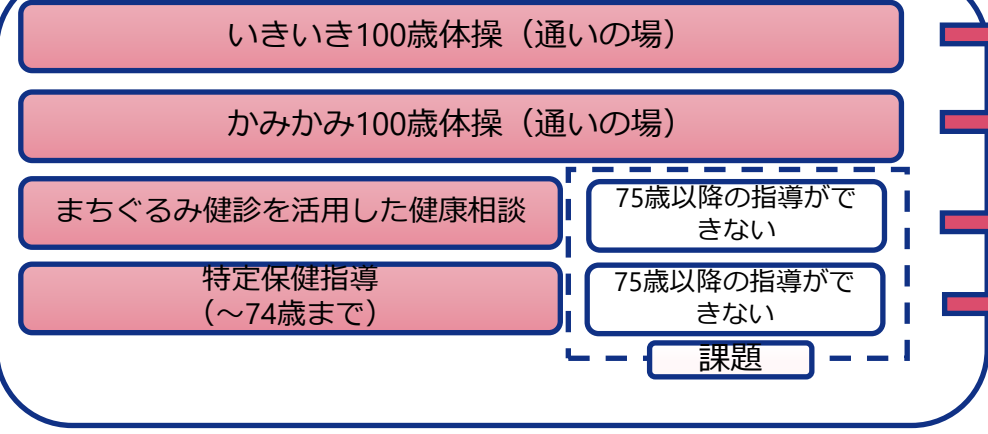
市の概況(令和4年4月1時点)		
人口		42,511人
高齢化率		38.2%
後期被保険者数		8,772人
日常生活圏域数		5圏域



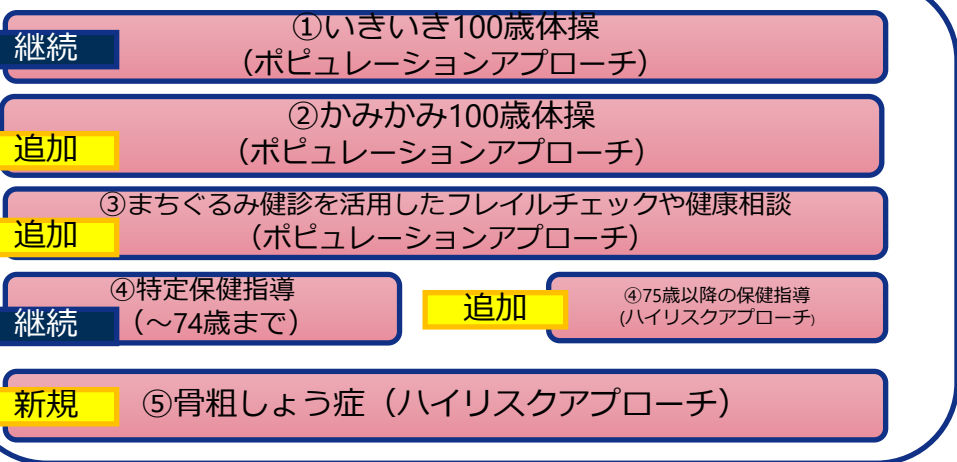
ここがポイント

- データ分析の結果、健康課題が骨折であることを関係各課で共有する。課題に対する目的を「健康寿命の延伸」とし、目的に向かって各課が事業を行う。
- KDBシステムや、市の独自システム、長寿介護課所管の主治医意見書などを活用しデータ分析を行い、課題を抽出している。

▼一体的実施前からの取組み



▼一体的実施での取組み



ここがポイント

- ①・②平成22年から淡路市では「いきいき100歳体操」「かみかみ100歳体操」が盛んに行われており、専門職の介入も行っていた。③まちぐるみ健診での健康相談(74歳まで)を実施していた。上記3事業をポピュレーションアプローチの場とした。既存事業の内容を修正し、新たに管理栄養士等の専門職を追加した。
- ハイリスクアプローチで訪問後は、必要に応じて①かかりつけ医に連絡②通いの場を紹介③包括を紹介④地域ケア会議で共有を行う。
- いきいき100歳体操では、参加者の歩行能力を中長期に把握している。それをもとに地域・会場別の比較により優先すべき地区・会場を選定。
- 限られた人員で、今あるものを活かし負担感なく続けられる事業をデザインした。

兵庫県淡路市

事業結果と評価概要(令和3年度結果)

		対象者数	参加者数	評価指標	状況(評価結果)
ハイリスクアプローチ	低栄養	29人	26人	①健康状態の把握 ②フレイルチェック票による食習慣の改善維持割合 ③介入前後の体重改善維持割合	①健康リスクなし21人 虚弱可能性5人 ②食べている食品数改善60% ③維持60%減少20%
	健康状態不明者	22人	19人	①健康状態の把握 ②必要なサービスへの接続	①59%の対象者に対し健康状態を把握 ②複数回訪問したが不在であった対象者は地域包括支援センター保健師と連携し地域ケア会議で共有
	その他(骨粗しょう症)	31人	10人	①精密検査・継続受診勧奨数 ②骨密度数値変化 ③生活習慣の改善維持割合	①精密検査受診勧奨4人、継続検査受診勧奨5人 ②③確認できず
ポピュレーションアプローチ	いきいき100歳体操	-	999人	①フレイルリスク該当者数 ②必要なサービスへの接続数 ③転倒場所・理由の把握 ④アンケートの満足度・理解度	①63人 ②13人 ③627人分把握 ④内容がよかったと回答した者85% フレイル予防を理解できたと回答した者95.4%
	かみかみ100歳体操	-	170人		
	まちぐるみ健診	-	409人	①フレイルリスク該当率 ②必要なサービスへの接続数	①健康状態あまりよくない8.3%(県:6.7%、国:7.0%) かみにくさ 24.6%(県:20.2%、国:23.3%) 転倒 19.7%(県:14.1%、国:14.2%) ②延べ64人

まちぐるみ健診では様々なブースを用意し、一日で他分野の健康教育・相談を受けられるよう工夫した。

通いの場での健康教育は一緒に体操をしている仲間と楽しく学べるメリットを感じている。

介護保険新規認定者の申請理由と主治医意見書を確認したところ、転倒による腰椎圧迫骨折が多いことが分かった。また、体操参加者に転倒理由や骨折理由について問診を追加。それらの内容を転倒予防の講話内容に組み込み、ポピュレーションアプローチに取り入れるようにした。

課題・今後の展望

- ハイリスク者が医療を受診しない理由として、「必要性を感じない」「医療機関にかからないことを誇らしく感じている」など意識変容が困難。
- ポピュレーションアプローチでは今後も多くの方と接することを大切にしたい。より若い世代からの健康教育との連動も大切にしたい。
- ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチとも目標設定と評価指標に悩んでいる。毎年実施することで積み上がった結果を出していきたいが、効果的なものになっていない。